



第八回新潟地方植樹祭

大きく育つて！……願いをこめて

愛林思想の認識を深め、緑豊かな住みよい環境づくりをテーマに、去る五月二十八日、金池地内で、第八回新潟地方植樹祭が行われました。造林関係者をはじめ、村内小学校の六年生も参加、弥彦、角田の山脈の豊かな緑と自然はみんなの宝として、大切に守り、緑化造林を推進していかねければならないと実行委員長(金子村長)のあいさつなど式典のあと、みんなでヒノキの苗木、一、五〇〇本を植えました。「ポクの植た木、立派に育つかな……。たまには様子をみにこなくては……。」と児童たちも感激していました。▲わたしたちも植えました……



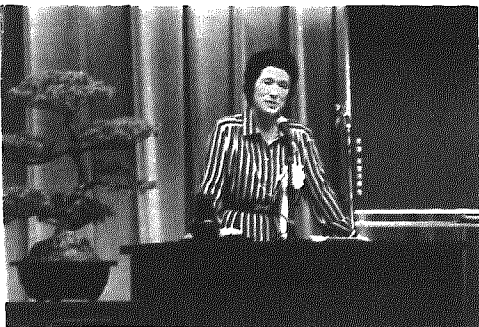
善意の汗ありがとう 巻農高生が勤労奉仕

村から通学している巻農高生二四名がこの程、役場を訪れ、庁舎周辺の除草や花だん整備などの作業奉仕をしました。この日のために、小づかいを出し合っで学校から購入したという、ベチューニア、マリゴールド、サルビア、を正面玄関に植るなど汗びっしょりでしたが、みなさんの善意で、すっかりきれいになりました。暑さのなか、黙々と作業する姿をみて、本当に感心しました。▲正面玄関にサルビアを植える巻農高生

村の話題

豪華講師にウツトリ

第24回東北電力文化講演会



東京工業大学名誉教授の矢島約次先生と、評論家の三枝佐枝子先生を迎えて、開催された第二十四回東北電力文化講演会は、村規模で行われるのは始めてとあって、村内外から五〇〇名からの聴講者が詰めました。親は、子どもの本当の意味での理解者にならうと母親としての立場から話す三枝先生の言葉にうなづき、八〇年代の国際情勢を、ときには、ニューモアをまじえての矢島先生の解説に拍手がおこるなど、それぞれ持ち味がかった講師の話に、満足しきっていたようです。尚、村の文化講演会は、九月二十八日、草柳大蔵先生を迎えて開催の予定です。お楽しみに！ ▲「人生相談あれこれ」を話す三枝佐枝子先生

成人を迎えた商工会

盛大に記念式典

創立二十周年を迎えた岩室村商工会(竹内正雄会長)では、六月十八日、公民館で盛大に記念式典を行いました。これまで、会を支えてきた功労者に対して、表彰状や感謝状が贈られるなど二十年の歩みをふりかえり、今度は、次の節目に向けて、力強い一歩を踏み出そうと新たな決意を誓い合っていました。表彰された佐藤九三九さんの「この二十年間、いろいろ、紆余曲折もありました。でも会員みなさんの努力でこんな立派な商工会になりました。感激です」と話す言葉がこの日の意義がすべてこめられているように思いました。

表彰される方々……



夏 食中毒

台所の衛生に 十分注意を



七月、八月の暑い盛りは、食品のいたみが早く、食中毒が多く発生します。食品の管理と台所の衛生には十分気をつけましょう。食中毒の予防は、一にも二にも食品を細菌から守ることに尽きますが、そのためには、次の三原則を忘れないようにしたいものです。

- ① 清潔
- ② じん速
- ③ 加熱と冷却



食中毒予防の三原則を守りましょう

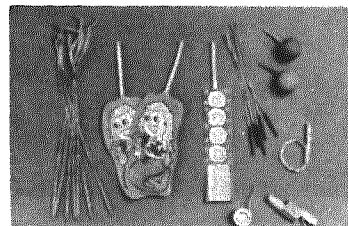
「清潔」については、いさげは必ず手を洗うくらい、まさか言うまでもありませんが、ふきん、まな板、包丁、食器類などの衛生には、とくに気をつけましょう。また、意外な盲点となるのが手です。台所に立つと、とくに注意しましょう。

③の「加熱」、つまり煮沸消毒は、手軽にできる。細菌退治法の「コン」です。とくに、ふきんは、バイキングの裏になりやすいので、よく洗って煮沸消毒をし、日光に干すのが一番です。また、「冷却」は細菌の増殖を抑えるのに効果がありますが、冷蔵庫を過信するのは禁物です。夏の間は、冷蔵庫の利用が増え、食品を詰めすぎて、冷気の循環を悪くしたり、ひんぱんなどびらの開閉によって庫内の温度が上がりがちです。週に一回くらいは、残品を整理するなどの「庫内清掃」を行いましょ。

花火は使用上の

注意をよく読んで

花火は、子どもの楽しい遊びですが、取り扱いを誤ると、人身事故を引き起こしたり、火災の原因になったりすることがありますから、十分注意しましょう。昨年は、中国製のおもちやの花火(魔術弾)による



いろいろな花火……使い方をよく読んでから遊びましょう。

命を落とした小学生もいました。この魔術弾という花火は、筒状の十五連発打ち上げ花火で、根元には地面に突き立てるためのプラスチック棒がついていますが、安全な取り扱い方として「一手に持たず、地面にまっすぐに立てて点火する……」とあるにもかかわらず、手

に持ったまま火をつけたため、噴射と同時にプラスチック棒が逆噴射して飛び出し、体に刺さったというものです。このように、ちょっとした不注意が、楽しい夏の夜のひと時を、一瞬にして台なしにしてしまいます。そのほか、手に持ったまましむ花火でも、死者が出ている。電気花火の花火が子ども

のゆかたに燃え移り……。バケツ一杯の水を用意していたら、大事には至らなかつたらうにと思われま。火災予防の点からも、花火を楽しむときは、必ず水の用意をしたいものです。火災といえば、花火による火災は年々増え続けており、昭和五十三年の発生件数は八百二十三件ののぼり、前年の五百七十一件を大幅に上回っています。人身事故といい、火災といい、取り扱いを間違えると、楽しい花火も「凶器」に一変することを物語っています。お子さんが花火で遊ぶときは、使用上の注意をよく読んで聞かせ、正しい取り扱い方を教えましょう。とくに幼児の花火遊びには、安全のために親が必ず立ち会うなど、次の点について特に注意したいものです。

夏休みを安全に

▽家から離れた場所では、火災警報や、強風、異常乾燥注意報が出ているときは、あけない

▽かならず水の入ったバケツをそばにおく